

今月のみことば

2015年5月



「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。」(ヨハネ第一の手紙3章16節 口語訳)

南海の楽園と言われるパラオ。ここで71年前、日米が総力戦を繰り広げ、日本軍がほぼ全滅したことを多くの日本人は知らない。◆10年前に同じく太平洋戦争の激戦地サイパンを訪問された天皇皇后両陛下は、今年、自ら強く希望され、去る4月8日、9日の両日、日本人兵士慰霊のため、この島を訪問された。◆日米の攻防の舞台はペリリュー島であった。現地の人々は、大人も子供もともに戦う決心をしていたが、日本軍は激しい言葉でこれを押しとどめ、住民全員をパラオ本島に退避させた。3日で攻略、というアメリカのもくろみに反し、戦いは73日に及び、ついに日本軍は壊滅した。◆ここに驚くべき数字がある。日本軍戦死者 10,695名、捕虜 202名。米軍戦死者 2,336名、戦傷者 8,450名、パラオ住民 死者0名、負傷者0名！◆戦後、ペリリュー島に戻った住民はおびただしい日本兵の遺体を見て嗚咽した。そもそも稲作、ナス、キュウリ、サトウキビ、パイナップルなどを持ち込み、缶詰めやビールなどの工場をつくって雇用を創出し、道路を舗装し橋をかけ、電気を通し、電話を引くなどのインフラ整備を積極的に行い、住民全てに対し、数種の疾病に対する予防接種を受けさせたのは日本人だったのである。◆現在、パラオ共和国は、世界に類のない親日国の一つであり、その国旗や切手は、日本への憧憬すら感じられるものとなっている。◆住民に非情なほどの厳しいことばで退避



命令を出した中川州男大佐の姿はイエス・キリストを彷彿とさせるものがある。キリストが弟子たちを逃し、ためらいもなくあのむごたらしい十字架刑をお受けになったのは、私たちもまた永遠の滅びに行かずにすむようにするためであったのである。(長野キリスト集会 尾崎)